

## 2022 年度大学入学共通テスト 解説〈倫理〉

### 第1問 源流思想

問1  正解は②。

- ② 「神の真理の言葉」はクルアーンであり、「彼によって示された言行・慣行」はスンナである。いずれもムスリムの生活規範となっている。
- ① ソクラテスは無知であることを自認しており(無知の知)、「ソクラテス自身を持っている真理」という表現は不適當。
- ③ 「神学」と「哲学」がすべて逆になっている。
- ④ ブッダは身分(カースト)を否定する立場であった。

問2  正解は③。

- ア 正文。孔子は克己復礼を仁と同一視している。
- イ 誤文。惻隱の心の説明は正しいが、これが成長すると仁となる。礼のもととなるのは辞讓の心である。
- ウ 誤文。儒家などは華美な葬祭に肯定的であったが、墨子はそうしたものは人民のためにならないとして、「節葬」を唱えた。

問3  正解は④。

- ④ イスラームでは、ユダヤ教最大の預言者モーセや、キリスト教におけるイエスなどもムハンマドに先立つ偉大な預言者と位置づけられている。
- ① イスラームは異なる文化圏の文物も受容しており、中でもアリストテレスの哲学については高度な研究を行っていた。これが中世末期のヨーロッパに伝えられると、アラビア語のアリストテレス研究が逆にラテン語に翻訳されてヨーロッパ哲学を大いに刺激した。
- ② イスラーム共同体であるウンマは、民族や国家の枠組みを超えるものであり、信仰においてムスリムはみな平等とされた。
- ③ ジハードは一般に「聖戦」と訳され、攻撃的なものがイメージされることが多い。ただし、自衛のためのものや武力に訴えないものも含まれる。

問4  正解は①。

- ① アリストテレスは、徳を知性的徳と習性的徳に大別し、中庸に合致した善行の習慣化で倫理的な徳が身につくとしたうえで、中庸は知性的な徳の一つである思慮(フロネーシス)によって判断されると説いた。
- ② 三元徳は信仰・希望・愛である。
- ③ ミルが重視したイエスの黄金率とは、「なにごとでも人びとからしてもらいたいことは、すべてそのとおりに人びともしてあげなさい」である。ミルは利他的行為のうちに功利主義の原理を見いだした。
- ④ 大乘仏教はブッダの根本精神としての慈悲を重視し、衆生を救済する利他行を重んじている。

問5  正解は①。

- a 資料では、真理と欺きまたは無知が対比されており、前者によって害されることはなく、後者こそが害であると述べられている。Bは、面倒を避けるために真理に向かうことを避けた自分を反省している。
- b ストア派は「情念に惑わされない」アパテイアを理想の境地とする。

問6  正解は③。

- ③ 誤文。「旧約」とは「古い契約」という意味で、イエスによって更新された新しい契約と対比して、キリスト教が使う言い方。ユダヤ教はイエスを認めないので、ユダヤ教の立場では「新約」は存在せず、したがって「旧約」という概念も存在しない。
- ① 正文。老子の説く道は自然万物の根源であって、人間が言葉でもって捉えることのできないものであった。最も大切なものは、言葉では言い尽くせないものだという考え方である。
- ② 正文。老子の「無為自然」の教え。
- ④ 正文。ヨブが自分の苦難の原因について問うたところ神の怒りを買ったので、ヨブは謙虚さを取り戻し、悔い改めを宣言している。

問7  正解は①。

- a 論争については否定的な評価だけが下されており、「論争をやめるべきである」と言われているので、論争の有益さを指摘する③や、論争の苦しみに耐える必要性を説く④は誤り。
- b ブッダは永遠のものは何もないとして、とりわけ自己への執着は苦悩と迷妄の原因だと説いた。したがって「真の自己」など存在しないし、またそもそもブッダは苦行による救いを否定している。

問 8  正解は②。

「①～④の記述内容自体は正しい」という設定に注意。選択肢の正誤を判断するのではなく、会話の文脈に合う内容の選択肢を選ぶ問題である。

- ② 空欄 a の直前の「議論をしてはじめて真理へと至る道が開けてくる」に対応する具体例を選べばよい。王陽明によれば、議論によって「正しい理解へと至ることができる」とのことだから、これが適切である。
- ① イエスは弁明の機会を与えられても黙って何も答えなかったとあるから、議論の意義の具体例とは言えない。
- ③ ナーガールジュナは論争による解脱を否定しているということだから、議論の意義の具体例ではありえない。
- ④ ゴルギアスは議論によって得られる真理を疑っているので、空欄の文脈と正反対の主張である。

## 第 2 問 日本思想

問 1  正解は④。

- ④ 古代日本人は純粋な清明心を重んじ、また祭祀への妨害は天つ罪とされている。
- ① 末尾が誤り。古代日本人は不可思議な威力あるものをすべて「カミ」と呼び、また自然の一切の中に霊的なものが存在すると考えた。
- ② 古代日本人は、災厄もまたカミの意志と捉え、それを鎮めるための祭祀を執り行った。
- ③ 古代日本人は、罪は人が生まれながらに持つものではなく、穢れのように外的なものと考えた。

問 2  正解は⑤。

ア 誤文。憲法十七条は人々に出家を求めているわけではないし、そもそも「和をもって尊しとなし」という言葉の出典は論語である。

イ 正文。仏教では、仏・法・僧を三宝とし、これらに帰依することが求められている。

ウ 誤文。「ともに」とは自分も他人もという意味であり、他人の意見を聞くことを否定しているわけではない。なおこの第十条の末尾では、「我独り得たりと雖も、衆に従って同じく<sup>おこな</sup>奉え。」となっており、自分で分かったつもりするときでも、人々の意見を聴き、従えと説かれている。

問3 11 正解は①。

- a 明恵は鎌倉時代の華嚴宗の僧である。『摧邪輪』を著し、法然の専修念仏の教えを批判した。
- b 「心身のあり方を重視する修行」とは坐禅のことである。古代インドのブッダも菩提樹の下で瞑想しているときに悟りを開いたとされる。浄土への往生を目指す浄土教の教えはブッダが亡くなった後に形成された。とくにひたすら念仏を唱えることを説いたのは鎌倉時代の法然である。

問4 12 正解は③。

- ③ 本居宣長の考えた「真心」とは、「よくもあしくも生まれつきたるままの心」と説明されるもので、さかしらを捨て、感情を素直に表現するようなあり方を指す。
- ①②④ 宣長にとっては、「物事の善悪」や「道理」よりも、ありのままの感情を表現することの方が重要であった。また感情を抑える姿勢は、宣長のいう「真心」の正反対である。

問5 13 正解は③。

- ③ 安藤昌益は、万人が耕す世を理想的な「自然世」と呼び、農民に寄生している武士階級が農民を支配する現実の社会を「法世」と呼んで批判した。
- ① 天文学者の西川如見についての記述である。
- ② 二宮尊徳の説明である。
- ④ 近松門左衛門の説明である。「人間が本来持っている心情」は人情、「社会において守るべき道徳」は義理を指す。

問6 14 正解は④。

- ア 安部磯雄についての記述。片山潜と並ぶ日本の初期社会主義者の代表。片山と同じくキリスト教的人道主義から社会主義思想に進んでいった。
- イ 北村透谷についての記述。ロマン派を代表する文芸批評家で、若いころに自由民権運動の挫折を経験したことから、「実世界」の変革から距離を置き、文学や信仰といった「想世界」における自我の確立を目指した。

問7  正解は②。

- ② 誤文。「真の实在」を認識するのは「純粋な知の働き」によるのではなく、知情意の区別のない純粋経験の境地においてである。
- ① 正文。西田は、我を忘れて主客が一体になっている状態を根源的な「純粋経験」と呼んだ。
- ③ 正文。親鸞は、煩悩を捨てることではなく、煩悩を捨てられないことを自覚することこそが重要であるとして、そうした自覚をもつ悪人こそが阿弥陀仏にとって真の救済対象だと説いた。
- ④ 正文。親鸞は、念仏も信心も、すべて阿弥陀仏のはからいであるとして、一切を阿弥陀仏に委ねるべきだとする自然法爾を唱えた。

問8  正解は④。

- ④ 「隔たりを浮かび上がらせ」は、資料の「間隔を保って行く」「何物かを否定する」に対応し、「現実を向上させる」は資料の「これ〔現実〕をおのれ〔理想〕に近接せしめ」に対応する。
- ①② 資料に「理想は何物かを否定する」とあるので、「現実を無条件に肯定」や「現実と齟齬なく合致」はおかしい。
- ③ 資料に「否定とは存在を絶滅することにあらずして」とあるので、「現実のありようを一方向的に否定」はおかしい。

## 第3問 西洋近現代思想

問1  正解は③。

- ③ ピコ・デラ・ミランドラは、演説草稿「人間の尊厳について」において、人間の尊厳は、自由意志によって神のようにも獣のようにもなることができる点にあると述べている。
- ① 自由意志をもつのは人間だけであるとされる。
- ② 人間は他の動物と違い、自由意志をもつとされる。
- ④ 人間は自由意志によって自己のあり方を自分自身で決めることができるとされる。

問 2 18 正解は④。

- ④ 空欄には、根拠もなく「思考停止状態に陥って少数の人々を迫害」する例が入らなければならない。思考停止状態で根拠もなく人々が熱狂的な行動をするという点で共通する状況だが、特定の人物を支持するという点なので、不適當。
- ①②③ 根拠もなく多数の人々が少数の人々を攻撃・迫害・糾弾するという点で、適当な例である。

問 3 19 正解は①。

- ① デカルトは、諸学問を正しい根拠の上に基礎づけるために哲学の第一原理を探求した。そのために彼は、少しでも疑う余地のあるものはしりぞけるという方法的懐疑を遂行し、いま自分が疑っているということだけは疑い得ないとして、思考する自我すなわち精神としての自己が存在していることを、哲学の第一原理とした。
- ② 方法的懐疑は確実な原理を発見するためのものなので、「結論を導くことを回避し続ける」ものではない。
- ③ デカルトは数学上の真理さえも疑った。
- ④ 経験論の立場は感覚的知識から議論を出発させるが、デカルトは、感覚的知識は不確定だと考えた。

問 4 20 正解は④。

- ④ 『人間知性論』を書き、生まれたばかりの人間の心はすべて「白紙(タブラ・ラサ)」であると論じたのは、イギリス経験論の哲学者ロックである。
- ① ヒュームの説明としては正しいが、空欄には当てはまらない。
- ② ロックは生得観念を一切認めず、人間の観念はすべて経験によって獲得したものだとする。
- ③ バークリーについての説明である。

問 5 21 正解は②。

- ア 正文。一般に矛盾とは存在し得ないものとみなされているが、ヘーゲルは矛盾があるからこそ発展があると考えた。
- イ 誤文。ヘーゲルの弁証法における止揚とは、対立・矛盾する二つのものの一方を保存し、他方を廃棄するのではなく、対立物の双方について、肯定的なものを保存し、否定的なものを廃棄することによって、矛盾を解消することである。

問6 22 正解は③。

- ③ ヤスパースによれば、真の自己を求める者は、人生における決定的な壁としての限界状況に直面する中で、はじめて他者との実存的な交わりを経験し、この経験を通して人は自己の実存を発見するとされる。
- ① 限界状況は「克服」することのできない壁だとされる。
- ② 「神のような超越的な存在に頼ることのない」という点が誤り。人は限界状況に直面することで超越者(包括者)と出会うことになる。とされる。
- ④ ヤスパースによれば、人は理性を通して自己の実存を解明することになる。

問7 23 正解は①。

- a デューイによれば、知性とは問題解決の能力であり、また社会を民主的に改良することに役立つものである。そしてこの能力は教育によって習得することのできるものである。したがって a についての①②④の記述は正しい。デューイはプラグマティズムの立場をとるので、③の a のように「唯一絶対の普遍的な価値」は認めない。
  - b デューイにとって、思考は適切に環境へと適応するためのものであるべきであり、環境の制約から自由になるようなことはできない。したがって①③の記述は正しいが、②④は誤り。
- 以上の組合せから、①が正しいと判断できる。

問8 24 正解は②。

- a II の会話の最初に、F は知識さえあれば思考停止は避けられると述べているので、思考停止の原因は「思考の材料が不足している」ことにあると思っていた、といえる。知識が真に自分のものとなっているかどうかという点は、同じ会話の中でロックの議論を聞いて F が思い至った結論である。
- b III の会話の中で、F は先生から、日常生活における心の引っ掛かりを大切にし、それについて自分自身で考え抜くことが大切だといわれている。なお先生は、考えを進めるうえで他人の存在はもちろん必要だと注意しているので、「他者の意見よりも自己の見解の方をこそ重視すべき」は不適當。

## 第4問 青年期・現代社会分野

問1 25 正解は⑤。

- a 人類を滅亡させかねない核兵器の廃絶を訴えたラッセル・アインシュタイン宣言についての記述が適当。①②の「持続可能な開発」も世代間倫理と関わる概念だが、この概念が提唱されたのは国連環境開発会議であって、国連人間環境会議ではない。③④の「宇宙船地球号」は、ハーディンではなくボールディングらが用いた概念。ハーディンは「救命ボートの倫理」と呼ばれる議論を提唱したことで知られる倫理学者。
- b 会話の中で、KはJに対して、現在世代の行動が遠い未来世代に害を与えることがありうると述べている。またKは未来世代を配慮することは「一方的な自己犠牲」ではないと述べているので、「見返りのない義務」という②④⑥の記述はおかしい。

問2 26 正解は②。

- ② デジタル・デバイドとは情報の活用についての環境や能力の格差がもたらす不利益のこと。
- ① ネット上での個人情報の漏洩は大きな問題だが、デジタル・デバイドの例とは言えない。
- ③ ネットで議論が極端化するという現象も問題視されているものだが、デジタル・デバイドの例とは言えない。
- ④ やはり記述内容は正しいが、デジタル・デバイドの例とは言えない。

問3 27 正解は①。

- ① 核家族化や単身世帯化が進むと、伝統的に家族で営まれてきた事柄を家族で行うことは難しくなり、外的な組織によって担われるようになっていく。これを**家族機能の外部化**という。
- ② 「脱中心化」ではなく「マージナル・マン(境界人)」が正しい。
- ③ 第二反抗期は10歳代の前半から半ばにかけて起こる。
- ④ エリクソンが考えた青年期の発達課題は自我同一性(アイデンティティ)の確立である。基本的信頼の獲得は乳児期の発達課題である。

問4 28 正解は④。

- ア 身体のもつ意義を強調した現象学者であるメルロ＝ポンティについての記述である。
- イ 生態系における人間の特権性を否定し、土地倫理を提唱したことで知られるレオポルドについての記述である。

問5  正解は①。

- ① ガンディーはインド独立の父と言われ、非暴力での抵抗運動を展開した。サティヤーグラハ(真理把持)の姿勢により、いかなる圧力があろうと、真理にのみ忠実な不屈の運動を行った。
- ② ガンディーは非暴力でありながら断固たる抵抗運動を展開した。
- ③ ブラフマチャリヤーは禁欲主義を意味する。
- ④ ガンディーは非暴力主義をとるので、「武力闘争も辞さずに」は誤り。

問6  正解は④。

Xは、他者への危害はいかなる場合にも認められないという原理で、アとイが当てはまる。

ア Xの事例である。他者への危害はいかなる場合にも認められないという原理で、二酸化炭素の放出は気候変動を通して他者への危害となることから、化石燃料の使用を控えるというのは適切な例である。

イ Xの事例である。牛や羊の消費はメタンガスの排出により温暖化につながることから、これを控えるというのは適切な事例である。

ウ Yの事例である。温室効果ガスの排出を抑制するのではなく、排出の代償として被害者に資金を拠出するということは、危害を控えるのではなく危害への補償を行うということである。

問7  正解は②。

- ② 自国の将来については、「明るい」と「どちらかといえば明るい」の楽天的な回答が、日本は他国と比べて際立って少ない。また社会問題の解決への関与についても、「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計は、日本では42.3%だが、韓国では68.4%と多い。
- ① aは正しいが、bの「社会を良くする…」以下の部分の記述が正しくない。
- ③ aは正しいが、bが正しくない。韓国では、自国の将来について「明るい」と「どちらかといえば明るい」の楽天的な回答の合計は41.0%で過半数に満たず、社会問題の解決への関与についての傾向はアメリカとあまり変わらない。
- ④ aは正しいが、bの「社会問題の解決…」以下の部分の記述が正しくない。

問 8 32 正解は④。

- ④ 「自らの内面的な正義の基準」を重視する姿勢は、は表中の「自らの良心」にかなう原理に従う姿勢と合致する。
- ① レベル 2 ではなくレベル 3 の例である。
- ② レベル 2 ではなくレベル 1 の例である。
- ③ レベル 3 ではなくレベル 1 の例である。

問 9 33 正解は③。

会話文の中で K は、私たちの遺産を誰かが継承してくれるということが、私たちにとっても重要だと指摘している。また会話文の中で J は、未来世代への責任を自己犠牲とみる発言をしていたので、**a**・**b** ともに適当。

- ① K は「未来世代の人の利害は現代世代の人の利害よりも重要」とまでは言っていないので、**a** は不適当。**b** については、K も四つ目の発言で「〔赤の他人〕を思いやるのは難しい」と認めているので適当と言える。
- ② K は「未来世代の人の利害は現代世代の人の利害よりも重要」とまでは言っていないので、**a** は不適当。**b** についても、J は会話文の最後で「自分らしく生きられるのなら、それで十分」と述べており、適当と言える。
- ④ **a** は適当だが、**b** が不適当。K は、未来であっても変わらないことがあり、遠い未来の人たちも同じ人間だと述べている。